

科目の学修到達目標 「初等教科教育法（音楽）」

No	テーマ	学修到達目標 学習到達目標	内容 何を学ぶか	課題 研究課題
第1講	【21世紀に求められる学力と学習環境】	<p>(1) 21世紀に求められる学力について説明できる。</p> <p>(2) 資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。</p>	<p>(1) 知識基盤社会で求められる力</p> <p>(2) 21世紀型学力を育成する授業への変革</p> <p>(3) 授業・教育課程のすがた</p> <p>(4) 評価のすがた</p> <p>(5) 取り組み事例</p>	<p>(1) 知識習得モデルと知識創造モデルの違いを説明しなさい。</p> <p>(2) 知識習得モデルから知識創造モデルへの授業改善について、具体例をあげて説明しなさい。</p> <p>(3) 変容的評価について、具体例をあげて説明しなさい。</p>
第2講	【インストラクショナルデザイン】	<p>(1) インストラクショナルデザインとは何か説明できる。</p> <p>(2) ID専用のPDCAサイクル「ADDIEモデル」について事例をあげて説明できる。</p>	<p>(1) インストラクショナルデザインとは</p> <p>(2) 音楽科教材開発とインストラクショナルデザイン</p> <p>(3) ADDIEモデル(フレームワーク)の活用～授業改善と定着～</p>	<p>(1) ADDIEのプロセスを検討し、音楽の教材を作成しなさい。</p>
第3講	【教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～】	<p>(1) 教育方法の歴史をつかむ。 現行学習指導要領の転換が図られていることを理解し、説明することができる。</p> <p>(2) 現在の学習指導要領において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示しながら説明できる。</p>	<p>(1) 教育方法の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動主義的学習観について ・認知主義的学習理論について ・構成主義的学習理論について ・社会構成主義的学習理論について <p>(2) これからの学びにおける、学習者の学びに向かう態度とは何か</p>	<p>(1) 教育方法の歴史としての、学習観の変遷を、学習者の具体的な姿を示し、述べなさい。</p> <p>(2) 現在の学習観において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示し、述べなさい。</p>

第4講	【音楽科学習目標のデザイン】	<p>(1) ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り挙げて説明できる。</p> <p>(2) ガニエの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明できる。</p> <p>(3) 明確な学習目標について、具体的に説明できる。</p>	<p>(1) 学習目標の明確化</p> <p>(2) 学習目標の分類</p> <p>(3) 明確な学習目標を設定する</p>	<p>(1) ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明しなさい。</p> <p>(2) ガニエの学習成果の5分類について、音楽教育の具体例を挙げて説明しなさい。</p> <p>(3) 明確な学習目標について、音楽の具体的な題材において設定しなさい。</p> <p>(4) 学年音楽の目標のタキソノミーテーブルを作成しなさい。</p>
第5講	【音楽科授業の分析と設計】	<p>(1) 何を学ぶのか、そのための授業のあり方について説明できる。</p> <p>(2) システム的な授業設計・開発の手順を5つに分けて説明できる。</p>	<p>(1) 授業の目標分析</p> <p>(2) 教育目標の分類学</p> <p>(3) 題材構成と教材の構造</p> <p>(4) 授業の設計・開発の手順</p>	<p>(1) 自分が授業を行うとするならば、何を学ぶ授業とするのかを具体的に述べなさい。学ぶことを実現するために、どのような授業とするのか、その方針を述べなさい。</p> <p>(2) (1)で述べた授業を基に、システム的な授業設計について、①何をしたいのか②何を学びたいか③何を指導したいか④どのような順序で学ぶのか⑤それを指導するために何がいるのか、の5つに分けて、具体例を示しなさい。</p>

第6講	【子どもの学習意欲を高める音楽教育】	<p>(1) 学習意欲を高める音楽の指導法について説明できる。</p> <p>(2) インストラクショナルデザイン (ID) の一環、ジョン・M・ケラーの ARCS (アークス) モデルについて具体的に説明できる。</p> <p>(3) アンドラゴジーをもとにして学校式教育から大人の学び支援について、その違いを具体的に説明できる。</p>	<p>(1) 動機づけを高める要因</p> <p>(2) ARCS モデル</p> <p>(3) アンドラゴジーとペダゴジー</p> <p>(4) 学習意欲を高める音楽科学習指導法</p> <p>(5) 学ぶ意欲を保ち続けるために</p>	<p>(1) アンドラゴジーをもとにして、学校式教育から大人の学び支援について、その違いを具体的に5つあげて、KJ 法を使ってグループごとに分類し、説明しなさい。</p> <p>(2) 各グループで学習の動機づけの具体的な方法をあげて、ジョン・M・ケラーの ARCS モデルのどの分類にあたるか、説明しなさい。</p>
第7講	【発達段階を踏まえた指導の充実】	<p>(1) 保幼小の連携、小中の学習指導要領の構成について、説明できる。</p> <p>(2) 発達段階を踏まえた指導の充実 (低・中・高学年) について、具体的な手だてを説明できる。</p>	<p>(1) 保幼、中学校の音楽科学習の接続</p> <p>(2) 発達段階を踏まえた音楽の感受を深める・表出する方法とその手だて</p>	<p>(1) 音楽科の学習指導において、児童の発達段階を踏まえた指導の具体例を、教材 (楽曲) 例を用いて説明しなさい。</p> <p>(2) 育みたい資質・能力を焦点化した音楽科学習指導の、小中比較表を作成しなさい。</p>
第8講	【「教えないで学べる」という新たな学び】	<p>(1) 「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げで説明できる。</p> <p>(2) 「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。</p>	<p>(1) J・B キャロル (Carroll) の学校学習の時間モデル</p> <p>(2) 自分の人生設計ができる子どもを育てる「教えないで学べる」学習環境</p> <p>(3) 学校教育の情報化</p>	<p>(1) J・B・キャロル (Carroll) の学校学習の時間モデルについて説明しなさい。</p> <p>(2) 「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。</p> <p>(3) 必要な時間と労力をかけても学んでみたいと思えるキャロルの</p>

				モデルに基づく個人差への対応例を挙げなさい。
第9講	【新たな学びとしての反転授業】	(1) 反転授業について、具体例な説明ができる。 (2) 音楽教育における反転授業の授業設計ができる。	(1) 音楽教育における反転授業 (2) メディアを組み合わせた教育リソース (3) 新たな学びと教育リソース (4) 映像資料と授業との連携	(1) 音楽教育における反転授業の学習展開について具体的に指導案を作成しなさい。 (2) 音楽教育における反転授業とその効果と可能性について説明しなさい。
第10講	【協働的な学びのICTデザイン】	(1) 協働的な学びにおけるICT活用のメリットを説明できる。 (2) 協働学習の考え方を理解し、実際に授業デザインできる。	(1) 協働学習と互恵的教授法の考え方と学習効果 (2) 協働学習に影響を与える要因 (3) 協働学習のデザインの手法と協働学習を支援する教材開発	(1) 協働的な学びにおけるICT活用について、学習活動と方法を、具体例を挙げて説明しなさい。
第11講	【学びの個別最適化をめざす音楽教育】	(1) 一人一人の子どもの音楽技能や興味・関心によって、追究方法や内容を選ぶ授業づくりができる。 (2) 協働的な学びをいかした学びの個別最適化を授業設計できる。	(1) 指導の個別化と学習の個性化 (2) 学びの個別最適化 (3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	(1) 学びの個別最適化に対応する音楽科学習の授業設計例を、フローチャートで示しなさい。 (2) 協働的な学びをいかした学びの個別最適化に対応する授業設計を、(1)に続けてフローチャートで示しなさい。

第12講	【カリキュラム・マネジメントと音楽科学習指導】	<p>(1) 音楽科におけるカリキュラム・マネジメントの充実について、説明できる。</p> <p>(2) 教科目標と評価のかかわりの視点から、コンピテンシーを育む授業づくりの工夫・改善について説明できる。</p>	<p>(1) 資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント</p> <p>(2) 教科目標と21世紀型学力</p> <p>(3) 補充的・発展的な学習への対応</p>	<p>(1) 教科目標と21世紀型学力を関連して</p>
第13講	【コンピテンシーを育成するデジタルアーカイブの構築】	<p>(1) 音楽科におけるデジタルアーカイブの利点を説明できる。</p> <p>(2) 音楽科デジタルアーカイブを構想できる。</p>	<p>(1) コンピテンシーを育む音楽科デジタルアーカイブの構築</p> <p>(2) 学びを可視化するスタディー・ログや学習データ（音源、MIDIデータ、動画、レポートなど）の整理と工夫</p> <p>(3) 補充的・発展的な学習への対応とデジタルアーカイブ</p> <p>(4) 音楽科教育研究とデジタルアーカイブ</p>	<p>(1) 音楽科デジタルアーカイブのフレームワークを構成しなさい。</p>
第14講	【音楽の意味と価値】	<p>(1) 音楽のおこりと発展について、説明できる。</p> <p>(3) 教材のマトリックスとその活用について、説明できる。</p>	<p>(1) 人間を知る、感じる</p> <p>(2) 音楽の世界</p> <p>(3) 音楽の見方・考え方</p> <p>(4) 教材の範囲とマトリックス</p> <p>・鑑賞 西洋音楽史 日本と諸外国の音楽 ポピュラーミュージック</p> <p>・表現 歌唱と合唱</p>	<p>(1) 学年の音楽科年間指導計画を作成し、教材選定意図を説明しなさい。</p>

			器楽 創作	
第15講	【音楽はなぜ学校に必要か～未来を 生きる世代に必要なこと】	(1) 音楽の多様性と普遍性について、音楽の例を挙げて説明 できる。 (2) 子ども一人一人が自分の個性に気付き、創造の担い手と なる経験ができる音楽科学習を構想できる。	(1) 音楽の多様性と普遍性 ～文化や歴史の理解～ (2) 人間の感情と音楽・芸術表現 のエネルギー (3) 感性を育む音楽科の役割 (4) 想像力とイノベーション（創 造性）の発展	(1) 創造力を育む音楽科学習指導 のために取り組むべきことを説明 できる。